

家畜衛生だより

Animal Hygiene News Letter

第295号

令和6年5月発行



新潟県

発行元：中央家畜保健衛生所

〒959-0423 新潟市西蒲区旗屋 686

TEL 0256-88-3141 FAX 0256-88-3185

Mail ngt066010@pref.niigata.lg.jp

最近の家畜伝染病発生状況

○ 高病原性鳥インフルエンザ

今シーズンは、令和5年11月25日に国内1例目が確認されて以降、令和6年4月29日までに10県11事例発生し、約85.6万羽が殺処分の対象となっています。野鳥では28都道府県154事例で確認されています。本県では今シーズン、農場での発生はなく、野鳥で新潟市、新発田市で確認されたのみ。

○ 豚熱

平成30年の岐阜県での発生以来、20都県で計90事例発生し、約36.9万頭を殺処分。令和5年8月の佐賀県での発生により、北海道を除く全国でワクチン接種。本県では農場での発生はないものの、令和5年度は野生イノシシで阿賀野市8頭、新発田市2頭、加茂市1頭、長岡市3頭、妙高市4頭の計18頭で感染が確認されています。

○ アフリカ豚熱

国内の発生は確認されていませんが、平成30年、中国で確認されて以降、急速にアジア諸国に感染が拡大しており、韓国では日本への航路がある釜山周辺で野生イノシシの感染が確認されており、侵入リスクが依然高い状況です。

○ 口蹄疫

中国、韓国、タイ、マレーシア等の近隣諸国で発生しており、国内への侵入リスクは高い状況です。

○ ヨーネ病（牛）

令和5年、県内で2頭発生（全国の様子は表のとおり）。ヨーネ菌を原因とし、数か月から数年間と長い潜伏期間の後に慢性の水溶性下痢、泌乳量の低下、消瘦等により生産性を著しく低下させる疾病です。

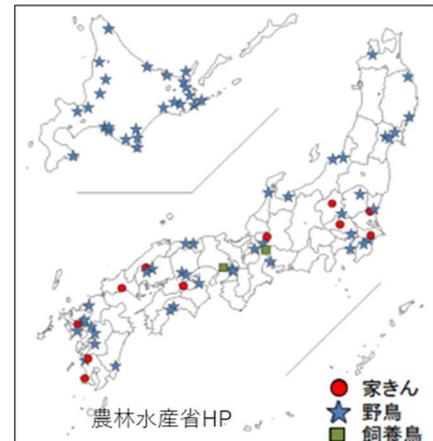
○ 牛伝染性リンパ腫

令和5年、県内で12頭発生（全国の様子は表のとおり）。ウイルス感染牛の大部分は無症状ですが、一部が発症し体表リンパ節の腫脹、消瘦、元気消失、食欲不振、眼球突出、乳量減少、下痢などを示し、死に至ります。

○ サルモネラ症（牛）

令和5年度、県内で2件発生（全国の様子は表のとおり、増加傾向）。子牛では下痢、発熱、食欲減退、妊娠牛では流産などを引き起こし、重症化すると死に至ります。農場で発生すると、経済的損失だけでなく、終息までに数ヶ月を要し、大きな精神的・肉体的負担となります。

鳥インフルエンザ発生状況（今シーズン）



全国ヨーネ病の発生状況

年	R1	R2	R3	R4	R5
戸数	380	399	446	519	470
頭数	1,066	809	957	1,147	1,060

全国牛伝染性リンパ腫発生状況

年	R1	R2	R3	R4	R5
戸数	1,944	2,075	2,179	2,182	2,295
頭数	4,113	4,197	4,375	4,334	4,492

全国サルモネラ症発生状況

年	R1	R2	R3	R4	R5
戸数	62	95	67	192	217
頭数	193	493	285	439	639

国内はもとより、県内でも野鳥や野生イノシシで病原ウイルスが確認されています。また、近隣諸国においても高病原性鳥インフルエンザ、口蹄疫、アフリカ豚熱の発生など、様々な家畜伝染病が発生しています。

農場を守るため、絶対に病原体を持ち込まないために、飼養衛生管理基準の遵守をお願いします！

～死亡家畜の速やかな処理をお願いします～

- 気温が高くなると、死亡家畜の腐敗が早く進み畜舎内の衛生環境が悪化するだけでなく、悪臭苦情の原因にもつながります。
- 死亡した家畜は、可能な限り速やかに化製場に搬入するように努めましょう。

令和6年度の重点実施事項

- **家畜衛生対策の徹底**
 - ・発生防止対策：飼養衛生管理基準の遵守、豚熱ワクチンの円滑な接種および免疫付与状況等の確認、野生イノシシへの浸潤状況の的確な把握
 - ・まん延防止対策：関係者と連携強化し危機管理体制強化、発生時の迅速且つ的確な対応のため防疫計画書の整備・防疫訓練等の開催
 - ・人材の確保と育成：修学資金制度を活用した産業動物獣医師の確保
- **生産基盤の強化**
 - ・意欲ある畜産の担い手を支援する体制・取組への積極的な協力
 - ・後継者の育成、円滑な経営継承、経営改善及び衛生対策の推進等を総合的に支援
 - ・酪農・肉用牛経営における規模拡大や生産拡大への支援
- **ブランド力の強化、生産性向上及びコスト低減による所得の確保**
 - ・衛生的飼養管理による安全・安心な畜産物の生産と畜産のイメージアップ推進
 - ・畜種別生産性阻害疾病対策による経済損失の低減
 - ・新技術の普及：受精卵移植技術を活用した効率的な後継牛及び子牛の生産

早めの暑熱対策を！～今年も暑い夏がきます～

近年の猛暑により、毎年暑熱による被害が報告されています。今年の季節予報でも気温が高い見込です。暑くなる前に機器を点検し、暑熱被害の低減を図りましょう。

- **畜舎環境対策**
 - ① 屋根：屋根への遮熱塗料やドロマイト石灰の塗布、屋根裏への断熱材の設置、屋根に散水を行うことで温度の上昇を抑えることができます。
 - ② 側面：畜舎の側面（壁、窓、入口等）を、寒冷紗などの遮光ネットやグリーンカーテンなどで直接日光を当たるのを防ぐことで畜舎内の温度上昇を抑えることができます。
 - ③ 畜舎内：熱がこもらないように扇風機を利用して風通しを良くし、畜体に直接風を当てることで体温の上昇を抑えることができます。さらに、細霧装置などを設置することで気化熱による温度の低下も期待できます。
- **飼養管理対策**
 - ① 密飼いをさける
 - ② 十分な飲み水の確保
 - ③ 飼料の給餌方法や管理

《4月から新体制となりました》

本年度も当所業務へのご理解とご協力をお願いします。

*：転入者等

所長・次長	課・係	課長	副参事・技術専門幹	主査・主任・獣医師	
所長 <u>小林淳彦*</u>	企画指導課	濱崎尚樹	堀江香会	野崎朋子 大勝裕子 戸川裕介	<u>田中健介*</u> 小柳智子
	庶務係				
次長 <u>濱崎尚樹*</u>	防疫課	馬上 斉	和食雄一	濱田英莉 岩本美貴(臨時)	宮島 証生
	病性鑑定課	福留 静	<u>本間裕一*</u>	佐藤圭介 吉崎 響	大川原志織 弥田進(臨時)

転出者：本間裕一(役職定年)、岡本英司(佐渡支所へ)、村山和範(畜産課へ)、今井杏子(中越家保へ)



高千市場で春季子牛市場が開催

4月2日に高千市場において令和6年度春季子牛市場が開催されました。今市場では、雌56頭、去勢71頭の合計127頭上場され、活気のある売買が繰り広げられました。今後も優良和牛子牛生産地域として、繁殖成績、子牛の発育などに留意し、子牛の安定供給に努めていきましょう。

高千家畜市場成績（2024年4月）

	上場頭数	日令	体重	日齢体重	価格	kg単価
雌	56	261	256	987	433,695	1,837
去勢	71	264	285	1,086	541,432	2,254
計・平均	127	262	272	1,042	493,926	2,059

家畜伝染病の発生状況

○ 高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン）

ア 国内：10県 11事例 85.6万羽

イ 県内：発生なし

5年11月25日に国内1例目が確認されて以来6年4月29日まで10県11事例発生し、約85.6万羽が殺処分の対象となっています。野鳥では28都道府県154事例で確認されています。

本県では農場での発生はなく、野鳥で新潟市新発田市で確認されたのみです。

○ 豚熱

ア 国内：養豚場 20都県 90事例 36.9万（直近R6.2栃木県、R5.8佐賀県）
野生イノシシ 35都府県（本州、四国）

イ 県内：養豚場での発生なし

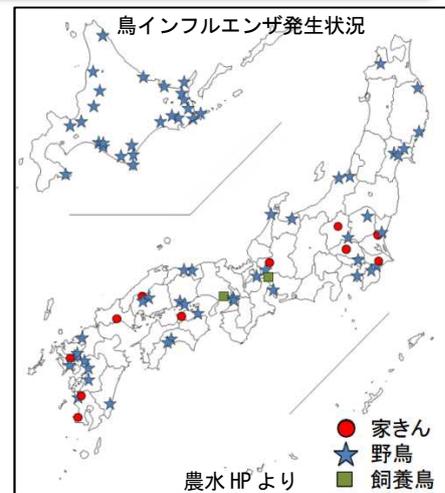
野生イノシシ：R2.4月に上越地域で初確認以降 14市町 73頭
（直近：R6.5月に上越市、R6.2月に妙高市、長岡市）

○ アフリカ豚熱

国内で本病の発生はありませんが、平成30年、中国で確認されて以降、急速にアジア諸国に感染が拡大。韓国では野生イノシシで感染が拡大しており侵入リスクが依然高い状況です。有効なワクチンや治療法はありません。

○ 口蹄疫

中国、韓国、タイ、マレーシア等のアジア周辺諸国において、引き続き発生しており、国内への侵入リスクは依然高い状況です。



令和6年度の重点実施事項

○ 家畜伝染病の発生予防とまん延防止体制の強化

- ・家畜伝染病の発生予防のため、生産者への最新情報の提供と注意喚起とともに、飼養衛生管理基準の遵守調査並びに改善指導を行います。
- ・迅速かつ的確な初動対応ができるように、防疫計画の確認や地域振興局等と連携した防疫訓練を実施します。

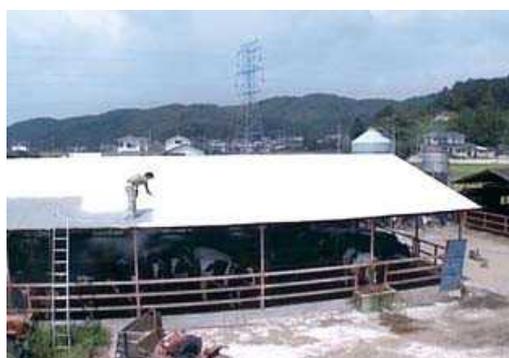
○ 畜産経営における生産性向上及びコスト低減による所得確保

- ・搾乳衛生及び飼養管理を指導し、生乳の品質維持・向上を図ります。
- ・黒毛和種繁殖牛及び子牛増頭、新規就農者の育成を目的に設立された大型和牛繁殖支援施設で、定期的な衛生検査、飼養衛生管理の指導を行います。
- ・公共放牧場や農場での牛伝染性リンパ腫の対策指導を行います。
- ・繁殖農場での受精卵移植技術を活用した遺伝的改良、優良な和牛子牛の増頭を支援します。また、子牛の事故防止のために衛生指導を行います。
- ・肥育牛の検査・指導により、高品質な「にいがた和牛」の生産拡大を支援します。

早い時期からの暑熱対策で被害を最小限に！

近年では早い時期から長期間の猛暑により、管内でも毎年多くの暑熱被害が報告されています。暑熱対策は、複数を組み合わせると効果的です。早期に再点検し、できるだけ暑熱被害を少なくするようにしましょう。

- 通風・換気の確保（換気扇、ダクト等）
- 送風機の設置・位置調節・清掃
- 寒冷紗・樹木や遮光ネット等の設置
- 屋根・壁・床への断熱材の設置、塗装
- 細霧装置の設置
- 十分な飲水の確保
- こまやかな給餌管理 など



畜舎への石灰塗布（全農 JACC ネット提供）

放牧が始まりました！

今年も島内で牛の放牧が始まりました。5月上旬までに、5か所の放牧場で計87頭が放牧されました。今年も牛伝染性リンパ腫の感染状況に応じた区分けをしています。ご理解とご協力をお願いします。

=== **新たな組織体制となりました。よろしくお願ひします！** ===

*転入者

支所長	主任	獣医師	主査（庶務）
岡本 英司*	羽入 さち子	青木 みのり*	武井 珠美

お世話になりました・後藤靖行（下越家保へ）、田中健介（中央家保へ）

家畜衛生だより



新潟県

下越家畜保健衛生所

〒959-2331

新発田市下飯塚 139-3

TEL: 0254-22-3067 FAX: 24-4022

休日、緊急時: 080-1134-8706

E-mail: ngt066020@pref.niigata.lg.jp

No.277 令和6年5月発行

最近の家畜伝染病発生状況

○ 高病原性鳥インフルエンザ

今シーズンは、令和5年11月25日に国内1例目が確認されて以来、令和6年4月29日まで10県11事例発生し、約85.6万羽が殺処分の対象となっています。野鳥では28都道府県154事例で確認されています。本県では今シーズン、農場での発生はなく、野鳥で新潟市、新発田市で確認されたのみ。

○ 豚熱

平成30年の岐阜県での発生以来、20都県で計90事例発生し、これまでに約36.9万頭を殺処分。有効なワクチンがあり、北海道を除く全国で接種。野生イノシシで感染が拡大しており、本県では農場での発生は確認されていませんが、70頭以上の野生イノシシで感染が確認されています。

○ アフリカ豚熱

国内では本病の発生は確認されていませんが、平成30年、中国で確認されて以降、急速にアジア諸国に感染が拡大しており、韓国では野生イノシシで感染が拡大しています。侵入リスクが依然高い状況。本病はアフリカ豚熱ウイルスが豚やイノシシに感染することによる発熱や全身の出血性病変を特徴とする致死率の高い伝染病です。有効なワクチンや治療法はありません。

○ 口蹄疫

中国、韓国、タイ、マレーシア等のアジア周辺諸国において、引き続き発生しており、国内への侵入リスクは依然高い状況。

○ ヨーネ病（牛）

令和5年、県内で2頭発生（全国の発生状況は右表のとおり）。細菌（ヨーネ菌）を原因とし、数か月から数年間と長い潜伏期間の後に慢性の水溶性下痢、泌乳量の低下、消瘦等により生産性を著しく低下させる疾病です。

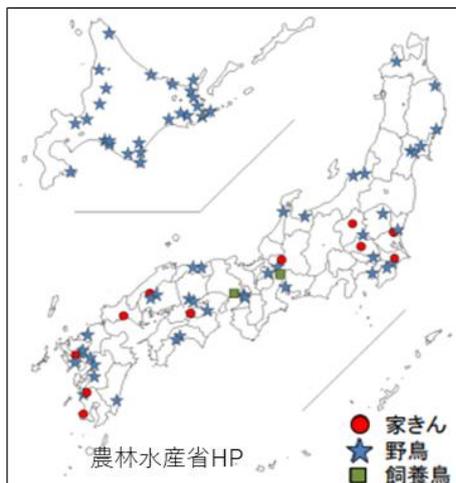
○ 牛伝染性リンパ腫

令和5年、県内で12頭発生（全国の発生状況は右表のとおり）。ウイルス感染牛の大部分は無症状ですが、一部が発症し体表リンパの腫脹、消瘦、元気消失、食欲不振、眼球突出、乳量減少、下痢などを示し、死に至ります。

○ サルモネラ症（牛）

令和5年度、県内で2件発生（全国の発生状況は右表のとおり、増加傾向）。子牛では下痢、発熱、食欲減退、妊娠牛では流産などを引き起こし、重症化すると死に至ります。農場で発生してしまうと、経済的損失をもたらすだけでなく、終息までに数ヵ月を要し、大きな精神的・肉体的負担となります。

鳥インフルエンザ発生状況（今シーズン）



全国ヨーネ病の発生状況

年	R1	R2	R3	R4	R5
戸数	380	399	446	519	470
頭数	1,066	809	957	1,147	1,060

全国牛伝染性リンパ腫発生状況

年	R1	R2	R3	R4	R5
戸数	1,944	2,075	2,179	2,182	2,295
頭数	4,113	4,197	4,375	4,334	4,492

全国サルモネラ症発生状況

年	R1	R2	R3	R4	R5
戸数	62	95	67	192	217
頭数	193	493	285	439	639

上記のとおり、国内各地で家畜伝染病が発生し、県内でも野鳥や野生イノシシでその病原ウイルスが引き続き確認されています。また、海外では、高病原性鳥インフルエンザをはじめ、アジア諸国での口蹄疫、アフリカ豚熱の発生など、世界各国で様々な家畜伝染病が発生しています。今後、国際的な人や物の往来の増加に伴い、家畜伝染病の侵入リスクが高まることが考えられます。

農場を守るため、絶対に病原体を持ち込まないために、飼養衛生管理基準の遵守をお願いします！

令和6年度の重点実施事項

○ 家畜伝染病の防疫対策

鳥インフルエンザ等の家畜伝染病の発生予防対策のため、畜産農場に飼養衛生管理基準の遵守徹底や円滑な豚熱ワクチン接種を指導します。また、迅速かつ的確なまん延防止を図るため、防疫計画書の見直しや実践的な防疫訓練等を行い、危機管理体制を強化します。

○ 畜産物の安全性確保対策

安全・安心な畜産物を供給するため HACCP 方式に基づく衛生管理を取り入れた「畜産安心ブランド生産農場」に対する認定基準の維持と取り組みを継続します。また、農場での HACCP システム構築について定期的な助言・指導を行い、取組を支援します。



○ 生産性向上対策

牛伝染性リンパ腫・ヨーネ病の清浄化、牛ウイルス性下痢の摘発検査・対策指導を実施し生産性向上を支援します。また、乳房炎防除・乳質改善、肉牛の肉質向上・繁殖改善、養豚の衛生対策改善を支援し、生産性向上、ブランド力の向上、及びコスト低減を図ります。

畜舎の火災事故を防ぎましょう！



畜舎の出火原因は、電灯や電話などの配線関係が最多で 10%前後と報告があります。「たこ足配線」など不適切な使い方や、蓄積したほこりや結露から漏電し、発火することが多いようです。これからの時期、扇風機などがフル回転しますので、火災から大切な家畜と畜舎を守るため、点検しましょう。

○ 電気設備の点検や清掃

- ① 漏電の点検：絶縁が傷ついたり、ホコリが湿気を帯びたりすることによって漏電やショートを起こし、感電や火災の原因になります。スイッチやコンセント周囲の定期的な清掃やネズミや害虫による損傷がないか点検すると共に、電気保安協会等の定期点検を受けて漏電の有無を確認する。
- ② 過熱の点検：タコ足配線による電気使用容量の超過やコンセント・スイッチ類の接触不良による電気抵抗の高まりが過熱による発火の原因になります。器具を適正に使用する共に、必要に応じて電気容量の変更やコンセントの増設を検討する。

○ 火元（コンロ等）に注意：火の近くに乾草や飼料袋等の燃えやすいものを置かない。

○ 万が一の場合に備え、①消火器具を設置する。②発生に迅速な消火活動が行えるよう道路通行や給水を確実に確保しておく。③従業員の避難・消火訓練、家畜の避難場所等を検討する。

死亡家畜の速やかな処理について

これから気温が高くなると、死亡家畜の腐敗が早く進み、畜舎内の衛生環境が悪化するだけでなく、悪臭苦情の原因にもつながります。また、化製場においても、腐敗の進んだ家畜の処理に伴い発生する臭気が原因と考えられる苦情が周辺住民から寄せられており、今後の化製場の稼働への影響が懸念されます。

死亡した家畜は、可能な限り速やかに化製場へ搬入するようお願いします。

《4月から新体制となりました》

○本年度もよろしくお願ひします。

※転入者

所長・次長	課	課長	副参事	主査・主任・獣医師	職員
所長 後藤靖行※	企画指導課	次長兼務	権田寛子	伊花奈々子 山家菜摘美 宮下知世（新採用）	下村一與喜
次長 内山保彦	防疫課	會田恒彦※	木村仁徳	中村正明 市川雄紀 町田栄里子 彌榮麻衣子（新採用） 増門宙	

転出者：小林淳壹（中央家保へ）、曾我万里子（上越家保へ）、森山友恵（畜産研究センターへ）



令和6年度の重点実施事項

- 家畜伝染病の発生予防とまん延防止体制の強化
 - ・ 家畜伝染病の発生を予防するために、家畜の飼養者に対して飼養衛生管理基準遵守の徹底を図ります。
 - ・ 飼養豚への豚熱ワクチン接種とその効果確認を行うとともに、野生イノシシの豚熱・アフリカ豚熱の検査体制を維持に監視に努めます。
 - ・ 万一の発生に備え、防疫計画の再点検、関係機関との連携・協力及び防疫訓練等を実施することにより、危機管理体制とまん延防止体制の強化を図ります。
- 畜産経営の生産性向上及びコスト低減
 - ・ 生産性を阻害する疾病について各農場の検査等を実施し、その結果に基づく技術指導により衛生対策の改善・高度化やコスト低減を図ります。

今年も早期の暑熱対策で暑い夏に備えましょう！

年々夏の訪れが早くなっており、今年も全国的に猛暑になる可能性があるといわれています。本格的な夏を迎える前に、農場の設備等を再点検して万全を期しましょう。

- 1 適切な飼育環境の整備
 - 直射日光を回避：遮光ネット等
 - 換気の改善：通気性の良い飼育環境を作る。風通しの良くし、熱がこもらないようにする。
 - ミストやスプリンクラーの利用：気化熱を利用し、周囲の温度を下げる。
- 2 水分補給の確保
 - 十分な水の供給：新鮮で冷たい水を常に提供する。
 - 水槽の清掃：水槽や給水設備を定期的に清掃し、常に清潔な水を提供する。
- 3 飼料管理
 - 適切な飼料の選択：高エネルギーで消化しやすい飼料を与え、体内熱の発生を抑える。
 - 給餌の時間帯の調整：涼しい時間帯(早朝や夕方)に給餌する。
- 4 適切な健康管理
 - 定期的な健康チェック：体調不良を早期に発見し、対処する。
 - ストレス軽減：過密飼育を避け、スペースを確保することでストレスを軽減する。
- 5 環境制御技術の導入
 - ファンの設置：大型ファンを設置して空気の流れを促進し、温度を下げる。

～ 死亡家畜の速やかな処理をお願いします ～

- ・ 気温が高くなると、死亡家畜の腐敗が早く進み畜舎内の衛生環境が悪化するだけでなく、悪臭苦情の原因にもつながります。
- ・ 死亡した家畜は、可能な限り速やかに化製場に搬入するように努めましょう。

最近の家畜の伝染病発生状況

○ 高病原性鳥インフルエンザ

今シーズンは、令和5年11月25日に国内1例目が確認されて以来、令和6年4月29日まで10県11事例発生し、約85.6万羽が殺処分の対象となっています。野鳥では28都道府県154事例で確認されています。本県では今シーズン、農場での発生はなく、野鳥で新潟市、新発田市で確認されたのみ。

○ 豚熱

平成30年の岐阜県での発生以来、20都県で計90事例発生し、これまでに約36.9万頭を殺処分。

令和5年度は4事例（兵庫県、佐賀県2事例、栃木県）発生し、佐賀県での発生により、九州全域でワクチン接種が開始されることとなった。

本県ではこれまでに農場での発生はないものの、野生イノシシでは、令和5年度に321頭中18頭（うち管内3頭、柏崎市、長岡市2頭）で陽性が確認されている。

○ アフリカ豚熱

国内では本病は確認されていないものの、近年、急速にアジア諸国に感染が拡大、韓国において野生イノシシ感染が拡大しており、日本への航路が多くある釜山周辺で相次いで陽性が確認されている。

○ ヨーネ病（牛）

令和5年、県内で2頭発生（全国の発生状況は右表のとおり）。ヨーネ菌を原因とし慢性の水溶性下痢、泌乳量の低下、削瘦等により生産性を著しく低下させる疾病です。

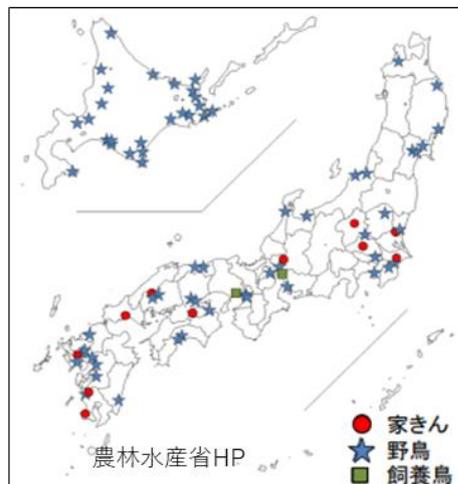
○ 牛伝染性リンパ腫

令和5年、県内で12頭発生（全国の発生状況は右表のとおり）。ウイルス感染牛の大部分は無症状ですが、一部が発症し体表リンパの腫脹、削瘦、元気消失、食欲不振、眼球突出、乳量減少、下痢などを示し、死に至ります。

○ サルモネラ症（牛）

令和5年度、県内で2件発生（全国の発生状況は右表のとおり、増加傾向）。子牛では下痢、発熱、食欲減退、妊娠牛では流産などを引き起こし、重症化すると死に至ります。

鳥インフルエンザ発生状況（今シーズン）



全国ヨーネ病の発生状況

年	R1	R2	R3	R4	R5
戸数	380	399	446	519	470
頭数	1,066	809	957	1,147	1,060

全国牛伝染性リンパ腫発生状況

年	R1	R2	R3	R4	R5
戸数	1,944	2,075	2,179	2,182	2,295
頭数	4,113	4,197	4,375	4,334	4,492

全国サルモネラ症発生状況

年	R1	R2	R3	R4	R5
戸数	62	95	67	192	217
頭数	193	493	285	439	639

国内はもとより、県内でも野鳥や野生イノシシで病原ウイルスが確認され、近隣諸国においても様々な伝染病が発生しています。

農場に病原体を持ち込まないために、飼養衛生管理基準の遵守をお願いします！

《4月から新体制となりました》

○ 本年度もよろしくお願ひします。

※ 転入者

所長・次長	課	課長	副参事	主査・主任	職員
所長 佐藤義政	企画指導課	次長兼務		佐藤彩子※ 今井杏子※ 漆原麻純 植木将之※	櫻井裕子
次長 太田洋一※	防疫課	里麻 啓	鈴木一徳	佐藤香代子 五十嵐紗代子	

転出者：濱崎尚樹（中央家保へ）、竹内智胤（上越家保へ）、渡辺由紀子（十日町地域振興局へ）

家畜衛生だより

No. 215 令和6年5月発行



上越家畜保健衛生所

〒943-8551

上越市本城町 5-6

TEL: 025-526-9441 FAX: 522-1724

E-mail: ngt066060@pref.niigata.lg.jp

令和6年度の重点実施事項

- **家畜伝染病の発生予防とまん延防止体制の強化**
鳥インフルエンザ等の家畜伝染病の発生を予防するため、家畜の飼養者に対して飼養衛生管理基準遵守の徹底を図ります。また、万一の発生時に備え、防疫計画の再点検や地域振興局との連携・協力、防疫訓練等を実施し、危機管理体制を強化します。
- **生産基盤強化のための技術指導**
担い手の規模拡大や後継者の育成等を推進するため、経営改善及び衛生対策を総合的に支援します。
- **ブランドの強化、生産性向上及びコスト低減**
肥育成績向上や乳質改善を支援し、生産性向上やコスト低減を図ります。また、公共牧場における牛伝染性リンパ腫対策を推進し、牧場の利用を促進します。

笹ヶ峰放牧場で牛の放牧が始まりました！

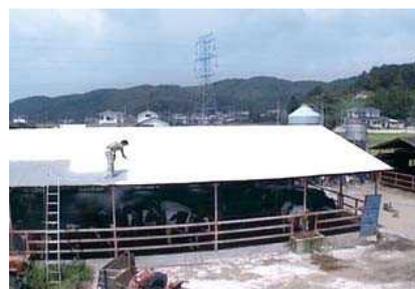
5月24日、笹ヶ峰放牧場で牛の放牧が始まりました。この日放されたのは上越市、糸魚川市などから、和牛18頭、乳牛38頭の合わせて56頭です。今年も牛伝染性リンパ腫の感染状況に応じた牛の群分けを実施しています。ご理解とご協力をお願いします。



早期の暑熱対策で暑い夏を乗り切りましょう！

年々夏の訪れが早くなっており、今年も全国的に猛暑になる可能性があるといわれています。本格的な夏を迎える前に、農場の設備等を再点検して万全を期しましょう。

- 通風・換気の確保(換気扇、ダクト等)
- 送風機の設置・位置調節・清掃
- 寒冷紗・樹木や遮光ネット等の設置
- 屋根・壁・床への断熱材の設置、塗装
- 細霧装置の設置
- 十分な飲水の確保
- こまやかな給餌管理 など



畜舎への石灰塗布(全農 JACC ネット提供)

死亡家畜の速やかな処理について

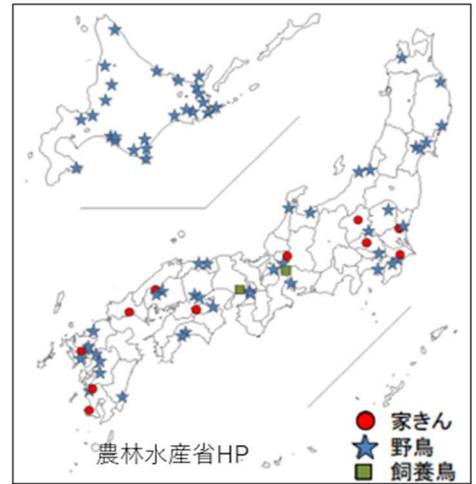
気温が高くなると、死亡家畜の腐敗が早く進み畜舎内の衛生環境が悪化するだけでなく、悪臭苦情の原因にもつながります。死亡した家畜は、可能な限り速やかに化製場に搬入するようにお願いします。

最近の家畜伝染病発生状況

○ 高病原性鳥インフルエンザ(R5～R6 シーズン)

令和5年11月25日から令和6年4月29日までに10県11事例発生し、約85.6万羽が殺処分となりました。野鳥では28都道府県154事例で確認されています。本県では農場での発生はなく、野鳥で新潟市、新発田市で確認されたのみでした。

鳥インフルエンザ発生状況（今シーズン）



○ 豚熱

平成30年の岐阜県での発生以来、20都県90事例発生し、約36.9万頭を殺処分。令和5年度は4事例(兵庫県、佐賀県、栃木県)発生し、九州全域でワクチン接種が開始されることとなった。本県では農場での発生はないものの、野生イノシシでは、令和2年4月に上越地域で初確認以降14市町73頭(直近R6.5月に上越市、R6.2月に妙高市、阿賀野市、長岡市)で陽性が確認されています。

○ アフリカ豚熱

本病は国内では確認されていないものの、近年、急速にアジア諸国に感染が拡大しており、韓国では日本への航路がある釜山周辺で野生イノシシの感染が確認されており、国内侵入リスクが依然高い状況です。

○ 口蹄疫

中国、韓国、タイ、マレーシア等の近隣諸国で発生しており、侵入リスクは高い状況です。

○ ヨーネ病(牛)

令和5年、県内で2頭発生。数か月から数年間と長い潜伏期間の後に慢性の水溶性下痢、泌乳量の低下、削瘦等により生産性を著しく低下させます。

全国ヨーネ病の発生状況

年	R1	R2	R3	R4	R5
戸数	380	399	446	519	470
頭数	1,066	809	957	1,147	1,060

○ 牛伝染性リンパ腫

令和5年、県内で12頭発生。ウイルス感染牛の数が発症し、体表リンパの腫脹、削瘦、元気消失、食欲不振、眼球突出、乳量減少、下痢などを示し、死に至ります。

全国牛伝染性リンパ腫発生状況

年	R1	R2	R3	R4	R5
戸数	1,944	2,075	2,179	2,182	2,295
頭数	4,113	4,197	4,375	4,334	4,492

○ サルモネラ症(牛)

令和5年度、県内で2件発生。子牛では下痢、発熱、食欲減退、妊娠牛では流産などを引き起こし、重症化すると死に至ります。

全国サルモネラ症発生状況

年	R1	R2	R3	R4	R5
戸数	62	95	67	192	217
頭数	193	493	285	439	639

国内外で様々な家畜伝染病が発生しており、県内でも野鳥や野生イノシシ等から病原体が確認されています。

農場を守るため、農場に病原体を持ち込まないために、飼養衛生管理基準を遵守しましょう！

《4月から新体制となりました》

○本年度もよろしくお願いいたします。

※転入者

所長	次長 兼企画指導課長	企画指導課		防疫課	
		獣医師	臨時職員	防疫課長	副参事
平山栄一	曾我万里子※	牧井賢充	前田紀貢子	篠川 温	竹内智胤※

転出者：太田洋一（中越家保へ）、八木笑子（退職）